

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	中野区東中野 3-12-2
園名	東中野しらゆり保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

様々な遊びを楽しむ中で、体の様々な動きや姿勢を伴う遊びを繰り返し楽しむ。

<テーマの設定理由>

目の前にある素材、遊具、玩具などに手を伸ばした子どもたちから発せられる問いに対し、子どもたちが主体的に環境に関わり、遊びへの興味・関心を広げ、探求を繰り返しながら「できた」という自己有能感及び喜びを獲得していく。

### 2. 活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
0 歳児		
ムーブメント教育・療育	20分/週1回	6人
手指の操作を高め食事を楽しむ	20分~/毎日	6人
1 歳児		
ムーブメント教育・療育	30分/週1回	12人
手指の操作を高め食事を楽しむ	20分~/毎日	12人
2 歳児		
ムーブメント教育・療育	30分/週1回	12人
3・4 歳児		
ムーブメント教育・療育	45分/週1回	7人

ムーブメント教育・療育は指導者が入って行う活動の他、日々の生活の中で、体を使った遊びを一人ひとりの興味・関心に応じて探求していく。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・はいはいマットを0歳児保育室に設定する。
- ・体感を整え、手指の発達を促す食具（スプーン・スタッキング食器）0・1歳児
- ・ムーブメント指導者が週1回来園し、ムーブメント遊具（カラーロープ・フラフープ）を使用して室内にサーキットを設定する。
- ・ムーブメント遊具（ビーンズバック・三角コーン・スペースマットを）室内に設置する。

### 4. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・0歳児は保育室に設定されたはいはいマットを、自らの意志で組み替えるなど、遊びを工夫する姿がある。また、一人ひとりの子どもが遊びを発展させながら自らの体をどのように使い楽しんでいくのかを探究する様子が見られる。
- ・スプーン操作がスムーズでない子どもにスタッキング食器に盛り付けられた食事と現状より持ち手の長いスプーンを渡すと、食器の縁が立ち上がった部分を利用して、自ら食材をスプーンに乗せ、口に運ぶことを繰り返し、食具の使い方の探求を続けている。
- ・ムーブメント指導者が週1回来園し、室内に準備されたムーブメント遊具を使用し主体的に遊びこんでいく。はいはいマットを使用した
- ・子ども自ら、多様な遊具を並べながら、サーキットを組み運動を楽しむ。
- ・幼児は、フラフープやカラーロープなどで身体意識やバランス感覚を培い、友達と協力しながら遊ぶことで、問題解決能力やコミュニケーション能力を育てている。
- ・室内に設定されたビーンズバック、三角コーン、スペースマットでは、投げたり、引っ張ったり、重ねたり微細運動を楽しみながら遊び込む姿がある。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「0歳児」活動に慣れてきた頃から、積極的に関わったり、真似をしたり、フープなどの用具を使用して、遊びを自分たちで見つける姿があった。

「1歳児」色に興味を持ち始めた子どもたち、保育者からの「赤から」「順番ね」という言葉かけに自分の番を待つ姿や、ルールを理解する姿が見られた

「2歳児」リズム運動の中で、「次はキリンさん」「恐竜」と真似したい動物を伝えてくれ、その動物に合わせて自分なりに考え身体を動かし、鳴きまねをして楽しんでいる。

「3・4歳児」子どもたちに聴く力が備わってきていることを感じる。また、遊具の導入など保育者が楽しめる環境を整えることで、子どもが主体的にやりたい、楽しみたいという気持ちが育まれていることを感じる。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

#### 【園の保育士より】

- ・遊びの中での手指操作を含め、体感を整えるなど子どもたちが自らの身体の使い方を探求するために、環境設定および大人の関りがいかに子どものやる気や意欲を引き出すのかを感じている。
- ・子どもの探求する姿から、大人自身も共に遊びこむ楽しさを体感出来ている。
- ・安心・安全を念頭に、多様な遊具を、どのように設定し、遊びを変化させていくのが今後も楽しみである。

#### 【ムーブメント指導者より】

- ・日々の保育の中でもムーブメント遊具を使用し繰り返し遊びを展開していることから、手指の操作やバランス感覚など成長を感じる。
- ・運動遊びが日々の生活にも効果的につながるよう、担任保育士との連携を深め、内容を検討していく必要がある。
- ・支援が必要な子どもには集団の他、個別での対応が必要と感じる場面があるが、全員が特別感を持つことが出来るよう、1名5分程度の個別プログラムを設定していきたい。
- ・遊びの中での手指操作を含め、体感を整えるなど子どもたちが自らの身体の使い方を丁寧に観察していきたい。
- ・子どもたちが楽しむために周囲の保育者もまた楽しく参加できるよう職員と連携して、計画していきたい。